

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	平成 28 年度第 3 回松阪市健康づくり推進協議会
2. 開 催 日 時	平成 29 年 2 月 7 日（火） 午後 1 時 30 分～午後 3 時
3. 開 催 場 所	松阪市健康センター 2 階会議室
4. 出席者氏名	委員 16 名内 13 名
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	1 名
7. 担 当	松阪市健康ほけん部健康推進課 TFL 0598-23-1364 FAX 0598-26-4951 e-mail ken.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

1. パブリックコメント結果報告
2. 第 2 次松阪市健康づくり計画（案）について
3. 平成 29 年度健康づくり推進事業実施計画（案）

議事録・委員名簿

別紙

平成 28 年度第 3 回松阪市健康づくり推進協議会議事録

事 項	発 言	内 容
開会 13:30	竹川課長	<p>お待たせいたしました。</p> <p>定刻になりましたので、只今から、「平成 28 年度 第 3 回松阪市健康づくり推進協議会」を開催させていただきます。</p> <p>本日は、皆様におかれましては、大変お忙しいところご出席を賜り、誠にありがとうございます。</p> <p>私は、健康推進課長の竹川でございます。議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>まず初めに、資料のご確認をお願いいたします。事前に配付いたしました資料と、当日配付の資料がございます。</p> <p>(事前)・事項書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度健康づくり推進事業実施計画 (案) ・冊子「第 2 次松阪市健康づくり計画 (案)」 <p>(当日)・計画冊子の差替え資料 68 頁、80 頁の 2 枚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメント結果 ・新健康センターはるる建設進捗状況について <p>以上が本日の資料でございます。</p> <p>もし、資料が不足しておりましたら、お申し出ください。</p> <p>それでは、事項書に沿って進めてまいります。まず初めに開催にあたり、会長の野呂様よりご挨拶をいただきます。</p>
会長挨拶	会長	<p>(会長挨拶)</p> <p>寒い中お集まりいただきありがとうございます。どうぞ今日もよろしく願いいたします。</p>
	竹川課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>なお、本日の協議会は、副会長 長井雅彦様、太田正隆様、水谷勝美様、顧問の植嶋一宗様が欠席でございます。</p> <p>本日の協議会は、委員 16 名のうち、<u>出席者 13 名</u>で、規則第 7 条により成立していることをご報告させていただきます。</p> <p>これより事項書にそって協議事項に入っておりますが、議事・進行につきましては、規則第 7 条により議長となります会長様をお願いし、進めてまいりたいと存じます。</p> <p>では議長、よろしく願いいたします。</p>
協議事項	会長	<p>規則に基づきまして、私が議長を務めさせていただきます。</p> <p>それでは事項書 2. 協議事項 (1) パブリックコメント等の結果について、さらに (2) 「第 2 次松阪市健康づくり計画 (案)」</p>

	<p>事務局</p> <p>会長</p> <p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>を合わせてについて、事務局から説明いただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12月9日環境福祉委員会協議会報告 ・ 12月12日～1月13日 パブリックコメント実施 <p>(1) パブリックコメントの結果および、(2) 第2次松阪市健康づくり計画(案)について修正点の説明</p> <p>ただいま事務局より説明のありました、委員の皆様からご質問ご意見を伺いたいと思います。</p> <p>(質疑応答)</p> <p>以前、Uの会での健康フェスタで「松阪市民の寿命は、三重県の平均寿命よりも長い。○か×か」という問題を出し、×で長くない、確かに計画書に書いてあります。まず、松阪の医療事情はおそらく三重県で一番充実しているという感じがあり、県全体でも絶対医療事情はいいと思います。ということは、医療だけに依存して長生きできない、健康長寿を全うできないということではないか。やはり健康づくりの重要性をもう少し真剣になってしないといけないのではないかと考えております。それと、女性の健康寿命も平均寿命も三重県の平均よりも低く、なぜ女性が低いのか。健康講座をすると、大体50人来たら45人は女性で5人が男性。興味があるのに何故かと思えます。合併する前に嬉野で保健計画を立てた時に住民調査をし嬉野も同じ結果で、女性が全国平均より低かったです。何が低かったかという、「健康感」と「幸福感」が低かった。何故かを色々考えたが、農業の主婦というのは過酷なのかなということで結局何の対策もせず、合併して松阪市民になったわけです。そういう何故松阪市の女性は平均寿命や健康寿命が短いのか、そこまでやっているデータはあるのでしょうか。</p> <p>第2次計画の6頁で、平均寿命・健康寿命の松阪市と三重県との比較があります。この健康寿命の出し方が「三重の健康指標」からで、要介護認定になっていないということで健康寿命を出しており、国が出している健康寿命と少し考え方が違います。国が出している健康寿命が「障がいとなっている期間」で聞き取りだと思のですが、第2次計画は「三重の健康指標」を使って出しております。国が使っている健康寿命を使うと松阪市としてのデータが出せないなので、比較するためにこちらを採用しました。平均寿命が男性は三重県よりも高く、女性が低い。健康寿命も男性は三重県よりも高く、女性が低い。先生がおっしゃられた通り女</p>
--	---	--

		<p>性が悪い状態になっています。差が 3.3 とか 2.8 とか書いてあるのですが、この健康寿命と平均寿命の差が健康でない期間となりますので、この差をなるべく縮めることが大事だと言われています。この差も、三重県と比べると少し差が開いており、要介護になる期間が長いこととなりますので、要介護を予防していくような取組みが今後必要になってくると思います。</p> <p>委員 どういう統計の取り方をするかでだいぶ変わってくると思います。一生懸命やっているがなかなか数字として出てこないのは何故かなと思ってしまいます。要介護ということは、何がいけないのか、フレイルか生活習慣病で具合が悪くなるのか、どちらなのかというデータはあるのですか。</p> <p>事務局 第 2 次計画では介護になった原因は載せていないですが、市国保のデータヘルス計画に介護に関するデータを掲載しております。そちらによりますと、介護になった病気の状況という中で一番多いのが心臓病で 60.3%、次に高血圧で 54.3%といった生活習慣病に関わるようなものが多いですが、その次に筋骨格系の疾患が 51.0%というような状況になっておりますので、生活習慣病が原因かと言われると、フレイル両方が介護認定につながっていくように思います。</p> <p>委員 こういう数値をあげていくことを考えていけば、原因というのを絶対探らないといけないだろうと思うので、それに対する対応策をとっていただくのが一番いいのかなと。なかなか難しいことだと思いますが、昔から全然変わっていないということは少し寂しいかなということです。</p> <p>もう一つ、地域包括支援センターの方で計画を立ててもらっていますので、認知症とかはいいかなと思うのですが、領域別に分けたということがありますよね。「はつらつ高齢期」が 65 歳以上で書いてある内容を見てみると一体何歳まで入ってくるのかということです。今の 60 代の方、僕も 60 代ですが自分がどこに入るのかと。散歩や運動しないといけないところに入ってくるのかな。今の 60 代は元気でそんな高齢期というところに入っていないのではないのかという気がしています。寝たきりにならないようにするためには、この 60 代を大事にしないといけない、何故かという今まで健診を受けていたのに定年になると健診を受けないなど、やはり少し中途半端な流動期です。ぜひ介護の認知症のところに行くまでに、もう少し包括支援センターではなく健康センターでもできることがあるのではないかと思います</p>
--	--	---

	事務局	<p>が、どうでしょうか。</p> <p>60代の方への取組みを大切にしていくというのは、おっしゃる通りで、第2次計画の「運動」「食」という生活実態のアンケートの結果でもやはり、若い年代では取組みができていないことが、少しお仕事から離れて時間ができ健康に関心が向くということで、取組まれる方が多くなるのは多くなるのです。ただ全員ではありませんので、60代の方へ健康に関心が向くような取組みを大事にしていきたいと思っております。</p>
	委員	<p>松阪の人というのは安静の好きな人が非常に多いです。運動習慣のない人が松阪にはかなり多いのではないかと、そういう人のことを私は不動人と呼んでいます。普段から動く人はどんな会議や集まりにも出てくるのですが、出ない人は何にも出てこない人が多い。テレビや雑誌等で運動不足についてはこんないけないよというのを知っていながら動かない人。何故そうなっているのかというと、やはり松阪は医療事業が進み過ぎているのではないかとということと、自分で自分の健康を守らなければいけないということを伝えていながらも、右から左へ抜けていっている方が多いのではないかと。基本に帰って自分の体を守る、そのためには動かさなければいけないよと、もっともっと伝えていくべきではないかとよく思っております。</p>
	委員	<p>私自身も運動習慣をつけるのが難しく頭ではわかるのですが本当に難しいと思っていて、やはり1人ずつの努力では難しい部分があるので、ヘルスプロモーション的な、職場で取組むとか地域だけでなく産業とも連携しながらやっていかないとなかなか難しいと思っております。</p>
	委員	<p>運動習慣のお話で、普段から積極的に運動する子しない子というのは、小学校くらいからでもはっきりその傾向が出ているように思います。今朝はみぞれで風も非常に強く運動場は全く陽が当たらずとても寒いのですが、朝来たらすぐ外へ出て行って遊んでいる子、走ったり冷たい遊具で遊んだり、縄跳び・ボール運動をしたり色々な形で運動している子の顔ぶれを見ていたら、毎朝大体同じような子どもたちです。学校としても子どもたちに、普段から運動することを声かけしていかなければならないと思うのですが、やはりお家でもその子の生活の仕方・過ごし方、子どももお家の方もどれだけ運動に気持ちを持っているかがすごく影響しているということを、特に寒くなってからよく感じておりま</p>

	<p>委員</p>	<p>す。</p> <p>何とか市が実施する事業に参加いただくことが大変重要であると思っており、その辺りの啓発が重要と思いました。地域包括支援センターの話も出ましたが、やはり介護予防を重点的にそこで事業をしながら予防に努めていく部分と健康センターが連携してやっていかなければならないと思っております。</p> <p>特に民生委員児童委員からしますと、それぞれの家庭が今平均2.3人と出ておりました。これまでは大家族があたり前のようなことがそうではないということで、世代の感性というのが随分変わってきている。以前でしたら農村社会というふうな、どちらかという縛られているような関係が、今はそうではない。特にどちらかというとお嫁さんのところに一緒に住まいをするというパターンも結構増えています。考え方が非常に変わってきていると感じます。基本的な家族のあり方も随分依然と違う感じがいたします。そんなことも取り巻く環境の一つと少し考えていました。</p> <p>皆さんのご意見と一緒にですが、自分の体を自分で守る、もっとセルフコントロールの意識を小さい時から持たせていくことが大事だと思います。そして、松阪だけではないですが三重県全体が車社会で、公共交通機関の整備も含めてイベントで集まるというだけでなく、普段の生活の中で「ながら運動」身近な家具や机等を使って動くだけでも、これくらいのエネルギーの消費をすることができる、または筋肉のここを強くすることができる、という具体的な細かい取組み、これならできるかも、この程度ならお家で、わざわざ出かけなくてもできるかもということをイラストやパンフレット等でも紹介していくと、少しずつ広がっていくきっかけになるのではないかと。</p> <p>産婦人科で体重コントロールの話をする時に、食事制限と運動も一緒にしようとなった時に「どうするの？」という人が多くて「ジムには行けない」と。家族と一緒に夕方歩くだけでも運動になるし、もっと色んな“体を動かす”ということがピンとこない若い人たちが多いと感じています。本当に基本的な生活から言わないといけないと思えます。10時や11時の診察に来られる時も、朝ごはんも食べていない、いつ起きたのか聞くと15分前という感じで、朝起きて朝ごはんを食べて、お昼はお昼ごはんを食べてというところから指導をしていかないといけないことをつくづ</p>
	委員	
	委員	
	委員	

		<p>く感じています。</p> <p>総合病院の救急でみえる患者さんが最近寒くなったせいもあって、心筋梗塞や脳血管障害が多いのですが、30代後半から40代の方がこの頃結構目立ち、若い方が多いという印象があります。先程の妊婦さんの体重コントロールのことも言われましたが、結構体重がコントロールできていない、きちんと食生活ができていないという方が多いと思うのが最近のことです。運動、食生活という生活習慣病の予防に関して、もう少し若い年代の方にもしていけないといけなと。どうしても高齢者の病気になられた方が多いのですが、最近は若い方が多いということが気になっております。</p> <p>この計画での色々の取組み、現時点でもされているとは思いますが、市民の方々が“一回ちょっとやってみようか”というきっかけが結構必要で重要な部分だと思います。ワークショップ形式の健康講座や、一回試して家に帰ってからもこれだったらできるということを、これからもまた考えていただければと思います。もう1点は松阪市で歩きタバコの禁止ゾーンのエリアがありますが、新型の電子タバコの取り扱いはどうなっているのかということと、設置されてからのエリアが今後拡大されていくのかどうか、もしお考えがあれば教えていただきたい。</p> <p>様々な貴重なご意見として承らせていただきました。計画最終案に盛り込ませていただいているものや、具体的な提案の活動をしていきその答えが出てくるもの、色々なことがあったと思います。歩きタバコ禁止のゾーンに関しては、主管する部署があり、今現在は駅前付近からずっと市役所付近までの禁煙ゾーンで示しておりますが、今後はさらにゾーンが増えてくるというふうに考えております。また、健康づくりを主管する課としてエリアを増やしてほしいという思い、そうでなければいけない町だと思っていますので、それが健康につながると信じて努力をすすめていきたい、電子タバコに関しても同じ害があるという認識で健康当局はおりますので、含まれてくるという認識でおると思います。</p> <p>医療の充実という前に健康の充実ということが大切だということのご意見が、第2次計画を作っていく上での中枢の考え方だと私は思っております。実は市長が日頃から、松阪市は人口クラス割には医療体制がすごく充実していて全国的にも誇れると、ことある場所でよく言っておりますが、実は医療費を中心とした社会保障費は年々大きくなってきているというのは、まだ問題としては</p>
--	--	--

	委員	<p>あると思っております、今後はこの社会保障費の抑制につながるにはやはり健康なんだということを市民の皆様にも認識をしていただけるように、この計画にどんどんそれが推進していくように頑張っていきたい、またそれを具体化していく取組みにつなげていくように事務局は努力をしていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>リハビリの色々な効果を調査し、運動能力の高い人・運動習慣のある人の方が、確実にリハビリ効果が高い結果が出ています。最近では小学校でしゃがめない子が増え、トイレは和式でしゃがめない。また成人においても講演に行かせていただいたら、年内には自動運転・自動ブレーキが出てくること、日本の安全性の高い車が世界中に出ていくと言われておりました。また食事・介護でも、ロボットがものすごく開発されている中で私たちがどんどん動かなくなってきました。難しい運動をするのではなく、ぜひやってほしいのは、歩き方教育を小さい頃にやっていただきたいと思うのです。歩き方ひとつ変えるだけでも、運動能力・体力づくりにもものすごくつながります。ところが今、日本の学校の中で歩き方って教えていないですね。自然に1年経って2本足で立ち、そして3年また5年と自分で覚えて自分で歩いていく、歩き方は全然教えられてない。私たちの頃は小学校・中学校・高校で行進の時間がありました。ということは、歩くこと1つとっても私たちが一番日常の中で、体を動かすのは移動、すなわち歩行力向上だと思うのです。松阪独自の歩き方教育をやっていただいて、全国に発信していけたら、どこかで取り入れていただいたらと感じます。最近、産婦人科の先生とも学会で少し話をし、洋式のトイレになってから、どうしても出産の時に困難な状態が出てきている。やはりしゃがむということは、とても大事ではないかと言われており専門の方でお願いしたいと思います。私は歩行力向上のところだと思いますので。</p> <p>僕らもウォーキングの講義を受け、いかにキレイに健康的に歩くか。先生が歩くと僕らの歩き方とは全然違い、知らなさ過ぎです。いわゆる“きっかけ”はものすごく大事です。何かのきっかけで人は変わることがありますので。僕らは健康づくりをしていますが、一番大事なのは行動変容で、行動を変えてもらうきっかけ。僕の実家はあんまり運動してなかった、そんなのするくらいなら畑で作れというのがおじいさん・おばあさんで、歩いている人もいなかったのですが、最近誰かがやろうと言ってラジオ体操を始めて、朝みんなその辺の人たちが集まってラジオ体操をや</p>
	委員	

	会長	<p>るわけです。これが行動変容で何かのきっかけで、これは絶対いいパターンで、ラジオ体操を毎日やると仲が良くなるし、この人来てないからどうしたのだろうとなり、いいと思うのです。我々がしないといけないことは、何かのきっかけ作りということで一生懸命色んなことをやっているのですが、なかなか難しい。行政の方もやるきっかけを考えないといけない。これは絶対健康づくりでは大事なことと思います。</p> <p>私も松阪に帰り母の診療所を継ぎましてちょうど30年経ちました。その間に男女ともに合わせての在宅死亡年齢が86歳を超えてきました。3年くらい前の時は90歳を超えてまして、大体2週間に1人の在宅看取りをしているようなペースで、もう760人を超えたかなと思います。30年前は、在宅死亡時の年齢が80歳でした。この30年間で6歳から7歳近く延びてきています。その原因は何だろうと、まだよくわかりません。それから、お亡くなりになる死因ですが7頁にある通りでして、実際80歳くらいまではどうも血管障害、脳血管障害あるいは心筋梗塞でお亡くなりになれる確率が高い。80歳を超えてみえますと、どうもしっかりとガンを見つけないと、脳卒中も起こらない、心筋梗塞も起こらないとなると残るはガンなんですね。何で死ぬんだろうということになってくると、高齢になるほどガンの確立が高くなっていくという印象は受けております。それともう1つは、警察医をしながら200人近い検案をさせていただいており、自分で見せていただいた方の平均寿命をみてみますと70歳です。ご病気の場合もありますし自殺の場合、事故の場合もありますが、どうも70歳を超えないのです。中には80歳を超えられてからの自殺もございます。検案事例になるとそれほどやはり寿命が短くなっている。これらを合わせたものが全国の平均寿命として出てくるのだらうと思うのですが、普通に生活をしていれば今の平均寿命までは十分いけるのだらうと思うのですが、医療を含め全ての環境が健康のためにいい方向に向いていただければと、これがまた健康づくり計画案の基だらうと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>以上、「第2次松阪市健康づくり計画(案)」についてご審議いただき、この計画について委員の皆様ご承認いただけますでしょうか。</p>
	会長	(委員承認)

	委員	<p>しみやすく印象づくネーミングで、ぜひこれを色々な形でPRして皆さんに定着をしていただけたらと思います。それから、ここでの“子育て”といいますと、乳幼児を対象にした子育てかと思いますが、やはり今、小学生のお家の方、それからもう少し大きくなられても非常に子育てには悩んでみえるお家の方が大変多いので、またそれは違うところでの相談等や教育の分野であるかと思いますが、そういったところも、そういった方も含めて子育てに関して気軽に相談できるような健康センターはるるにいただけたらと思います。</p> <p>住民協議会といたしましても、普段から健康講座またはウォーキングの講座については努めてやりたいと考えております。なおかつウォーキングについては、なるべくファミリーで集まっていたきたいと、学校の方にもお願いしチラシも配るのですが、なかなかファミリーの参加が少ないです。個人ではたくさんの方がいらっしゃいますが、これからも努めて学校を通じファミリーでウォーキングに参加をしてください、またあるいは健康講座にも色々な方に参加していただきたいと、これからも努めてやっていきたいと思っております。よろしくお願ひします。</p> <p>どうしても母子中心に事業があるという感じがします。講演会の開催は女性がすごく健康づくりに関心を持たれますが、男性の参加はどこの保健センターでも本当に難しいみたいです。せっかく新センターができたので、女性だけが出入りする場ではなく、男性の方も出入りできるような男性限定の教室の企画を。退職された後地域でといっても小さい時から同じ地域に住んでいれば「あなたの定年待ってるわ」と地域の高齢者の方に言っていたかもしれませんが、団地や元々そこの地域でなければ、「あの人、定年になったんやな。このごろ家でブラブラしてるな」となってしまう、地域でのつながり、地域だけに期待しても難しい部分はあると思ひます。新センターができた事をきっかけに、男性の方の健康づくり、あるいは男性の方が出てきやすい場の提供も考えるといいと思ひました。</p> <p>今年度、食生活改善推進員養成講座があり、男性の方も1人受講され、松阪市全体としては松阪グループで男性会員が5名みえます。まだまだこれから男性会員も増えて、そしてより地域で活動が進むといいと思ひています。特に食を通じての健康づくりで若い世代に伝えたいと思ひ、やってみたのですが、なかなか若い人に伝える・来ていただくこともできないし伝える手段がない、</p>
	委員	
	委員	
	委員	

	委員	<p>そういうところもこれからもっと工夫してやっていきたいと思っています。</p> <p>プラザ鈴が閉館になります。閉館になったらそこで運動習慣が身に付いた人が次に行くところがない。講座が半分も決まっていない、あちらこちらの公民館にお願いに行っても、公民館もふさがっていて今使えない現状で、よくよく考えると松阪市の場合には、スポーツの面においても、健康の面においても、割と自由に使える場所というのが乏しい。何とか“はるる”も3階にはそういう施設がありますので、またプラザ鈴からの閉館に伴って行くところがない人たちが何とか来れるようなシステム作りを考えてやっていただきたい。もう1つ女性・男性が健康長寿を目指す中で一番のキーポイントは、女性の場合は閉経前後45～55歳をどのように過ごすかが一番のポイントになってくるのではないかと。男性においては、定年後をどのように生活習慣を改めていくか。よくあるのが、今まで頑張っていたから定年後は体にご褒美をあげようと言われるのですが、どんなご褒美ですかと聞くと「食べただけ食べて、寝ただけ寝る」それを例えば半年から1年したら元に戻らないのですよね。定年を迎えた人のライフアップセミナーというものを企業や組合でもやっております。そういう組合に入っていない人でも、松阪市で行うライフアップセミナーが定年を迎えた方の、将来健康で長生きする1つの方法としてこんなのがありますよと提供できるといいと思います。</p> <p>皆さんと一緒に意見ですが、やはり集まってくれる場所を提供するのが一番大事。気軽に来れる、そのためにはどうしたらいいか、お役所の上から目線であれやったらいい、これやったらいいでは、人は集まってこないと思いますので、やはり市民の目線で色んなことを考えていただくのが大事だと思います。例えば、あれを食べたらいいと思うけれど、人それぞれに事情があるわけで、食べたくても食べられないとか、そういうことを考えられるような施設になってほしいと思っています。先程言われましたが、そういう開かれた場所であってほしいと思っています。僕らのそういう意見を参考にさせていただいたら本当にいいと思います。</p> <p>それでは、「平成29年度健康づくり推進事業実施計画（案）」について、委員の皆様ご承認いただけますでしょうか。</p> <p>（委員承認）</p>
	委員	

<p>終了 15:00</p>	<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。</p>
	<p>事務局</p>	<p>今年度は3回にわたり、ご審議いただき、委員のみなさまにおかれましてはご協力ありがとうございました。</p>
	<p>事務局</p>	<p>今後、健康づくり計画が推進していただけますように、ご協力のほどよろしくお願いいたします。事務局お願いします。</p>
	<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。先ほどご承認いただきました「第2次計画」の今後のスケジュールにつきまして、3月2日市議会環境福祉委員会協議会に報告させていただき、印刷・製本し平成29年4月から施行開始となります。</p>
	<p>竹川課長</p>	<p>それでは事項書3. その他でございますが、(1)新健康センターはるる建設進捗状況について説明いたします。</p>
	<p>事務局 竹川課長</p>	<p>新健康センターはるる建設進捗状況について報告</p> <p>委員の皆様から何かございますか。</p> <p>長時間にわたりましてご審議ありがとうございました。平成29年度の協議会につきましては、引き続き皆様をお願いしておりますが、2回の開催を予定しております。「第2次健康づくり計画」推進の1年目ということで、委員の皆さまにいただきましたご意見を参考に健康づくりを推進してまいりたいと思います。</p> <p>ではこれもちまして、平成28年度第3回松阪市健康づくり推進協議会を終了させていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p>

平成 28 年度第 3 回 松阪市健康づくり推進協議会委員

No	氏名	団体等	役職	備考	出欠
1	野呂 純一	松阪地区医師会	会長	会長	○
2	太田 正隆	松阪地区医師会	参与		欠
3	長井 雅彦	松阪地区歯科医師会	会長	副会長	欠
4	中村 文彦	松阪地区薬剤師会	副会長		○
5	村林 恵子	松阪中央総合病院	看護部長		○
6	馬場 啓子	元三重中京大学短期大学部教授	元教授		○
7	水谷 勝美	松阪市自治会連合会	副会長		欠
8	堤 康雄	松阪市民生委員児童委員協議会連合会	主任児童委員 部会長		○
9	中村 文恵	松阪市食生活改善推進協議会	会長		○
10	横井 美登	徳和住民協議会	会長		○
11	太田 正澄	健康づくり嬉野Uの会	会長		○
12	平岡 令孝	厚生労働大臣認定 健康増進施設 (有) 平岡健康開発研究所	代表		○
13	山路 由実子	鈴鹿医療科学大学	准教授		○
14	松井 訓子	南産婦人科	助産師長		○
15	高木 幸子	松阪市小中学校長会	校長		○
16	三宅 義則	松阪市健康ほけん部	部長		○
顧問	植嶋 一宗	松阪保健所	所長		欠